

学術越境フォーラム

～博士号取得者の多様な学術越境活動・キャリアパスを知る～

第6回

研究支援としてのURAから学術越境を考える

～これまでのキャリアから～

2025年11月28日(金)5限 16:45～18:15

講師からのコメント

URA(リサーチ・アドミニストレーター)とは「研究支援の専門職」として、研究者と事務職とをつなぐ役割として10年ほど前にできた職業です。私は2022年に学位を取得したのち、2023年からURAとして働いています。大学院生時代は主に毒ヘビの生態学を専攻しておりましたが、

URAでは人文社会科学系の研究者を対象とし、融合研究に関する業務を行っています。本講演では自らのキャリア選択の経緯を踏まえつつ、博士号取得者の新たなキャリアとしてのURAの紹介に加え、研究支援を通じて考えてきた「学術越境」のあり方についてお話しいたします。



講師

福田将矢 総合研究推進本部・URA

1993年長崎県佐世保市生まれ。京都大学農学部資源生物科学科、同大学院理学研究科生物科学専攻修士課程を経て2022年同博士後期課程終了。大学院生時代の専門は動物行動学。京都大学人と社会の未来研究院URA、学術研究展開センターURAを経て、2025年より現職。主に人社系・理工系の研究者支援および研究広報の業務を行う。

専門：動物行動学

学術越境ポイント

大学院時代までは理系の分野で研究してきましたが、現在はURAとして人文社会科学系と様々な分野の研究者とつなぐお仕事をしています。自分自身も越境を経験し、そして研究者の「学術越境」をお手伝いしてきた身として、色々な視点からお話しできればと思っています。

会場/定員

- ・人間・環境学研究科棟4階、433室 / 20名程度
- ・Zoom/ 20名程度
- ※一般公開どなたでも参加できます。

申込

QRコードから申し込みください。
(現地参加のみ申込無しでも参加可。)



■講演後、学術越境センター室(537)で講師との交流会を予定(1時間程度)。